

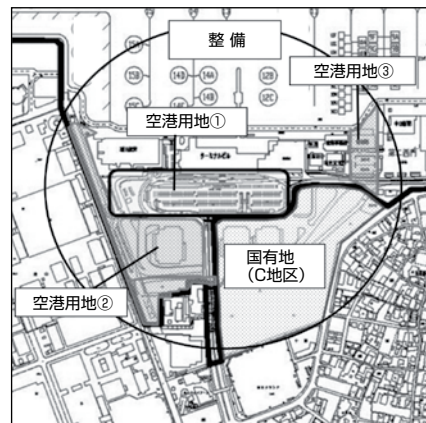
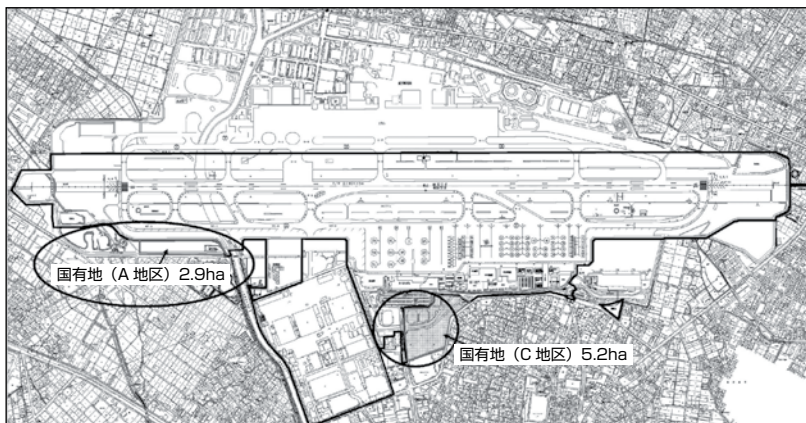
空港機能の整備に向けて（全員協議会報告）

愛知県から県営名古屋空港ターミナル西側の隣接地に、民間航空機の生産・整備拠点を誘致するプロジェクトが発表されました。愛知県によると想定の一つであるMRJ量産拠点が立地すれば、その規模は、新規雇用2千人、投資規模600億円という大規模なもので、将来的にはMRJの生産数（月）10機の実現が見込まれています。

また、この地域は、大規模災害が発生した場合の中部地区の空の基幹的広域防災拠点となる重要な役割をもつ位置づけとなります。

現段階での事業計画の予定は、

- （ア） 駐車場を空港用地①へ集約し立体駐車場とする。
- （イ） 県有地（空港用地②）及び国有地（C地区）を航空機の生産・整備並びに大規模災害の後方支援を担う拠点とする。
- （ウ） 神明公園の東隣接の国有地（A地区）を駐機場とする。



FDA（フジドリームエアラインズ）が新規路線

県営名古屋空港の利用者も順調に増え、年間利用者も初めて44万人を超えました。

FDAは今後の路線拡大のため、航空機を新規に2機追加し拡大を図ります。

また、3月末には新規に高知便が就航。同時にいわて花巻便が1日2往復から3往復に増便されました。町も利用者の増加に期待をするものです。